



自由と友愛の独立カトリック教会

The Independent Catholic Church of Liberty and Fellowship

すべての隣人を愛し、共に歩む—LGBTQ+の兄弟姉妹とともに

自由と友愛の独立カトリック教会による公同の信仰に基づく莊嚴なる宣言

✠ 父と子と聖霊の御名により、我らは謹んで宣言する。

われら自由と友愛の独立カトリック教会は、主イエス・キリストにおける無条件の愛と憐れみに堅く立ち、神の像を宿すすべての人の尊厳と自由を擁護し、とりわけ LGBTQ+ の兄弟姉妹と共に歩むことを、福音に生きる教会の聖なる召命として、公に、確信をもって告白する。

2025 年 1 月 20 日、アメリカ合衆国大統領ドナルド・トランプ氏は、大統領令第 14168 号「ジェンダー・イデオロギーの過激主義から女性たちを守り、連邦政府に生物学的な真実を取り戻す (*Defending Women from Gender Ideology Extremism and Restoring Biological Truth to the Federal Government*)」に署名し、これを発効せしめた。この命令は、性別を出生時の生物学的特徴のみによって固定的に定義する一面的かつ排除的な立場に立ち、特にトランスジェンダーの兄弟姉妹の尊厳と生の表現を公共制度から黙殺せんとするものであり、神の像を宿す者としての存在そのものを否認する靈的危機である。

われらは、かかる制度的暴力と靈的否定に対し、主にある良心と信仰に基づいて、明確かつ断固たる拒絶の意思をここに莊嚴に表明する。主の御からだに連なる教会が沈黙するとき、石が叫ぶ。今こそ、われらは語らねばならぬ。主イエス・キリストの御名によって、愛と正義をもって証しせねばならぬ。

【1】洗礼の契約に生きる愛と奉仕

われらは、洗礼において「キリストに従い、隣人を愛し、仕える者となる」と誓いを立てた。この聖なる誓約は、誰と食卓を囲み、誰と共に立ち、誰の声に耳を傾けるかという、福音に生きるわたしたちの存在の根幹をなす召命である。

神の像にかたどられしすべての人びとは、いかなる属性によってもその尊厳を否定されることなく、キリストにある交わりのうちに迎えられるべきである。福音に生きるとは、愛と受容と奉仕を、祈りと行いをもって顯すことである。

【II】キリストにある交わりとしての受容と連帯

われらは、LGBTQ+の兄弟姉妹、とりわけ歴史的に繰り返し傷つけられてきたトランスジェンダーの方々を、キリストの聖なる体を構成するかけがえのない肢体として受け入れ、礼拝と聖餐に共に与る信仰の交わりにおいて、まことの兄弟姉妹として宣言する。

教会は、いかなる人も、性的指向や性自認ゆえに拒まれることなく、信仰と召命を育む安息の場、すなわち聖所（*sanctuary*）でなければならない。これは単なる社会理念ではなく、天の国の福音に生きる教会の根源的使命である。

【III】婚姻の神学と信仰的理解

婚姻とは、神の御前において交わされる愛と誠実の契約であり、その神学的本質は性別の組み合わせにあるのではなく、誠実なる相互の献身・敬意・責任に存する。

ゆえにわれらは、同性婚もまた、主の御前において祝福されるべき誠実なる契約として認められると信じる。すべての誠実な愛のかたちに、神はその憐れみと祝福とを注がれる。これを軽んずることは、造り主の自由なる愛を汚す行為に他ならない。

【IV】教会の預言者的責務

時代の権力が声を奪い、定義を押しつけ、神の像を踏みにじるとき、教会は主の義と憐れみの代言人として毅然と立ち、主の御心を証しし続けねばならない。

主イエスは、拒まれし者とともに歩み、蔑まれし者の友となられた。われらもまた、声なき者の声に耳を傾け、嘆きとともに祈り、正義と和解とを求めて共に立つものでありたい。

【Ⅴ】祈りと希望のうちに歩む教会

この証しの道行きは、ただ主の聖霊の導きと支えによってのみ成し遂げられる。われらは、聖霊の導きによって、違いを超えて共に生きる知恵と識別とを祈り求める。

どうか主よ、われらに隣人を愛する勇氣と、正義を語る声と、平和を築く手とをお与えください。福音の光に照らされ、すべての人と共に歩む聖なる教会を、この地に築くことができますように。

✠ 父と子と聖霊の御名において一われら、神の御助けを仰ぎつつ、謹んでこれを宣言する。
アーメン。

2025 年 1 月 21 日

教会を代表して

自由と友愛の独立カトリック教会

大主教 佐藤俊介

